

シンポジウム 7 企画概要

タイトル	家族全体を「見る」在宅医療
------	---------------

概要

本プログラムは日本プライマリ・ケア連合学会との共催プログラムとして開催されます。プライマリ・ケアの立場では、地域医療を構成する要素のうち、「ACCCA」、すなわち「近接性 (accessibility)」、「包括性 (comprehensiveness)」、「継続性 (continuity)」、「協調性 (coordination)」、「責任性 (accountability)」が重要な要素と考えられています。

長く外来通院した患者が通院することが困難になり開始される在宅医療は、むしろ「かかりつけ医」の立場で行うことが、この「ACCCA」をより満たした医療であるといえるのかもしれませんが。このようなケースは、「かかりつけ医」による診療所で多いのかもしれませんが。一方で、病院から医療依存度の高いケースが退院し直後から集中的な医療的支援を必要とする場合にも、もちろん「ACCCA」は存在します。訪問看護、調剤薬局や介護との連携、そのうえで最期まで責任を持って見ていくこと、これらは「ACCCA」に他なりません。この両者が異なってくるとしたら、家族との関係性、それを形成する時間の違いがその一つとして挙げられます。

在宅医療においては、患者そのものへの支援ももちろん大切ですが、家族の存在は極めて重要なカギとなります。さまざまな治療や療養の方針の共有、家族の歴史、患者自身が在宅で療養する意味、患者の介護をめぐるさまざまな物語など、在宅医は家族を「診る」として「見る」ことを求められるのです。

しかし、関わる医療者のそれぞれの視点によっても、その家族像は少し違って見えるのかもしれませんが。病院から退院した時から関わる在宅医療専門診療所の視点、あるいは家族ぐるみで診療をする立場からの医師の視点、そして看護師の視点、これらはそれぞれに少し異なるのかもしれませんが。

このような視点の違いの中で、家族との信頼関係の構築、家族支援へのアプローチ、家族ケアの実際はどのように異なってくるのか、論じてみたいと考えております。

家族支援を行いながら在宅患者の生活を支えることが、我々在宅における医療者(支援者)のミッションの一つであると考えます。この家族アプローチをそれぞれがスキルアップし、自らの臨床に生かせるようなシンポジウムにしたいと考えております。